

特集 コープdeスマイルフェスタ……P4

4月24日(金) 生協代表の一員として出発!

被爆の実相や核兵器廃絶の願いを世界に発信するため、日本原水爆被害者団体協議会(以下、日本被団協)と日本生活協同組合連合会(以下、日本生協連)は合同代表団を結成し、ニューヨークに出発しました。日本被団協より48人、全国45の生協から91人、合計139人が参加しました。

4月25日(土) 合同代表団で交流を深め、気持ちをさらに1つに!

代表団参加者は90歳~高校生まで。5人の被爆2世も参加し、日本被団協代表団へ外務省から「非核特使」委嘱状の贈呈がありました。



委嘱状を持つ児玉さんと真田さん

4月26日(日) 平和パレードで、核兵器廃絶をアピールしました!



ユニオンスクエアにて、核兵器廃絶のためのNGO共同集会に参加しました。広島市の松井市長、日本被団協の参加者が「父をかえせ。母をかえせ。人間をかえせ。」と力強いスピーチをされました。松井市長から国連上級担当代表アンゲラ・ケイン氏へ核兵器廃絶署名が手渡されました。パレードは、国連本部まで約3kmを2時間行進しました。総代さんなどからの平和のメッセージ入りタペストリーを掲げながら歩きました。



4月27日(月) 国連原爆展にて被爆者証言のサポート活動をしました

国連原爆展にお誘いの声かけや、証言集を配布しました。折鶴の作り方を教え、交流を深めました。



原爆展で折り鶴



原爆展

4月28日(火) 米国の高校で被爆者証言のサポート活動をしました



日系人会

ニューヨーク郊外にある、ホワイトブレインズ高校で証言活動をしました。高校2年生が100人ほど集まり、歴史の授業の一環として行いました。生徒からいくつかの質問を受け、「教科書だけでは知りえない、生の体験を話してくれてありがとう」と、握手を求められる場面もありました。



高校生たち

夕方からは、日系人団体の会合に招かれ、証言活動をしました。「一緒に遊んでいた従兄弟は被爆でなくなり、自分だけ生き残った負い目を感じ続けてきたこと、被爆者ということで差別を受け、移住した北海道でも苦勞の連続だったこと、産まれた子どもが健康に育つかなど、不安の連続の人生だった」と、語られました。



4月29日(水) 活動最終日 「これからが始まり」



原爆展

国連原爆展にてパネルを見ている方たちひとりずつに被爆者が直接語りかけ、年齢も国もさまざまな来場者から多くの質問が寄せられました。

午後からはマレーシア国連代表部を訪問し、核兵器廃絶を求める要請書を手渡しました。「核兵器のない世界を実現するためにこれからも努力と支援を行っていく」と、コメントをいただきました。



マレーシア政府

夜は、最後の懇談会があり、「これで終わりではなく、帰国してからが新たな始まり」「ここで聞いたことをたくさんの人に伝えたい」などの声が寄せられました。

参加して★

被爆者は、高齢の身体をおして必死で核兵器の恐ろしさを訴えました。これほどまでに突き動かすのは「自分たちに残された時間はもうあまりない」という焦りと、「2度と自分たちのような思いを味わってほしくない」という心からの願いです。ひとりひとりの人生を瞬間で変えてしまう核兵器は絶対になくさなければならない、私たちはそのことを被爆者から引き継いでいかなければならないと思いました。

よどがわ生協では、核兵器や戦争のない平和な世界の実現のため、今後もさまざまな取り組みを進めていきます。

国連本部



4月27日(月)から米国・ニューヨーク国連本部で開催する「核兵器不拡散条約(以下、NPT)再検討会議」に、全世界に向けて「核兵器廃絶に向けた願い」を届けました。生協代表団の一員として、よどがわ生協から、理事の澤田美奈さんと平和グループの松木陽子さんの2人が参加しました。

核兵器はいらない 私たちの想いを世界にアピールしました!



澤田さんと松木さん



NPT再検討会議とは…

1970年に「核不拡散条約(Nuclear Non-Proliferation Treaty、略称:NPT)」発効。以降5年毎に国連本部のある米国・ニューヨークで開催され、締約国が核不拡散条約を守っているかをチェックしています。



<http://www.yodogawa.coop/>

よどがわ生協 検索

今月の生協さん 第1支所



委託配達: 天王寺・東中区和泉区担当 肥後 達也(だつや)

よどがわ生協の地域担当者として、笑顔で地域の方にあいさつを心がけています。



エコアクション21 認証・登録番号0006727

よどがわ市民生協は環境マネジメントシステムに基づいたとくみを行なっています。